

書写・書道科の学習指導に関する研究

最終更新日：2015年9月3日

美術教育講座
教授
和田 圭壮

キーワード ・目習い ・鑑賞 ・自分のめあて ・言語活動

研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

私は、小・中学校国語科書写及び高等学校芸術科書道の学習指導法に関する研究を行っています。
国語科書写では、「書写」と「書道」の違い、「書写」と「習字」の違いから、あるべき「書写」教育はどのような学習活動であり、どのような力を身につけるべきであるかを明らかにし、出前授業を通じて、自らの授業実践を基に研究しています。特に、「手習い」ではなく、「目習い」に着目し、子どもたちが書写用語を獲得し、「自分のめあて」をたて、言語活動によって、自分の文字を考えながら改善していく姿が見られることを目指しています。

書写用語の獲得 → 自分のめあてをたてる → 考えながら練習 → 改善された達成感 → 新たな課題解決

「目習い」(文字を整えて書くための要点を、視覚的に学ぶこと。)による学習

芸術科書道では、鑑賞教育に重点をおいて研究しています。
本来、書道教育の視点からその特性のみに固執することなく、広く芸術教育の視点から考える必要があると考えます。芸術教育としての授業を行う責務があることを再認識し、芸術科の目標に掲げられている内容を意識しながら実施するべきではないでしょうか。特に、「感性を高め」「芸術文化についての理解」「豊かな情操を養う」の文言に着目し、書道の授業において、感性や豊かな情操を養うことを意図的に計画し実施する授業が必要であると考えます。こうした考えで、現段階では、特に感性を高めるにはどのような授業方法がよいのかという視点で研究を進めています。

成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

私の研究成果は、小・中・高等学校において、書写・書道の「目習い」または「鑑賞」に関する授業実践につなげていただくことができます。特に、小・中学校国語科書写に関しては、教員研修の機会が少ないので、初めて学ぶ内容に驚かれる方も少なくありません。

また、書写での「目習い」の考え方を応用して、大学の授業や教員免許状更新講習において、「板書のチョーク技法」を指導しています。この板書のチョーク技法は、昨今、若い教員が増えている中で、注目を集めており、ある教科書会社のホームページにも、動画教材として作成していただく機会を得ることができました。この動画教材を扱いながら、実技講習を行うこともできます。

このように、小・中学校国語科書写、高等学校芸術科書道、板書のチョーク技法に関して、地域での研究会や校内研修に役立てていただくことができると考えています。

また、小・中学校国語科書写の出前授業も受け入れていますので、ご相談ください。

免許状更新講習「板書」の講座風景



小学校の出前授業風景



これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

【出前授業・教育的支援等】

- ・平成13年度～平成27年度、筑後地区の小学校にて毎年書写授業を8時間前後実施
- ・平成13年度～平成26年度、附属小学校・中学校にて計20時間程度実施

【平成26年度の研究会・研修会等での講演】

- ・筑後地区国語科書写教育研究大会で講演
- ・山口県高等学校教育研究会 書道部会研究大会で講演
- ・鳥取県高等学校書道教育研究会指導養成講習会で講演

【板書のチョーク技法に関する講習】

- ・免許状更新講習
- ・久留米市教育センター講習